

# 金鷹山

令和6年(2024)9月1日発行

## 通巻第21号

発行所 若宮八幡社社務所  
〒873-0004  
大分県杵築市大字宮司336番地  
発行者 宮司 紀田兼宣  
電話 080(5503)3488

金鷹山 若宮八幡社 検索

神社公式ホームページ開設しております。御覧ください。  
Instagramはじめました。御覧ください。

祝祭日には国旗を掲揚致しましょう



蓬萊雅楽会設立35年記念演奏会で高麗笛を吹く紀田宮司(左端) 写真提供:蓬萊雅楽会

### ◆社報「金鷹山」第二十一号の目次

- ◆1頁 若宮楽の予告
  - ◆2頁 若宮八幡社奉斎会だより 『常若講座』開始のお知らせ
  - ◆3頁 観月祭の予告 『初誕祭・七五三詣』の勸奨 神宮式年遷宮特集
  - ◆4頁 新嘗祭奉献のお勧め 『御田植祭復興委員会』の発足
- 宮司出向報告 編集後記

### 仲秋祭・若宮楽のお知らせ

来る九月十五日(日)に奉納されます  
この日のために一所懸命に練習に励みました

来る九月十五日(日)午後2時から、若宮八幡社の境内において、「大分県無形民俗文化財 若宮楽」が奉納されます。  
この日のために、保存会会長 小春稔氏ほか保存会会員各位のご指導のもと、夏休みに入るとすぐに休みの前半は宮司区公民館で、主に宮司区在住の子供さん方を、休みの後半には北杵築地区コミュニティセンターで、主に北杵築在住の子供さん方を懇切にご指導戴きました。

当日は、親神様である京都男山に鎮座されます石清水八幡宮の、年に一度の「勅祭・ちよくさい」である『石清水祭・いわしみずさい』が斎行される日であり、当社はこの石清水祭を寿ぎ『仲秋祭・ちゆうしゅうさい』を午前中に斎行致します。  
若宮楽は、どなたでも自由に拝観できますので、近所お誘い合せの上、多数お見えになりますことを関係者一同お待ち申し上げます。



昨年の若宮楽の様子



# 奉斎会だより

## 『若宮八幡社奉斎会』が七月二十八日(日)に組織発会しました 広く入会をお勧め致します

去る七月二十八日(日)若宮八幡社御本殿において、『若宮八幡社奉斎会設立大祭』が斎行され、引き続き『若宮八幡社奉斎会設立総会』が開催されました。

この若宮八幡社奉斎会は、寛和元年(西暦九八五年)に、当社が下司の浜田社として御創建以来の信仰・歴史・伝統を守り、所蔵の文化財を後世に伝え、温故知新の精神を以て、神社の興隆を図るために必要な事業を企画し、実施することを目的として、設立発会された組織であります。設立当初は、その主旨に賛

同された五十六名の会員で発会されましたが、その後会員相互の広報等により、少しずつ会員数が増えてきました。この奉斎会は、その主旨にご賛同いただける方であれば、全国どこにお住まいの方でもご入会になることが可能です。

設立総会では、仮の議長に矢野守光総代長に就任戴き、会則及び役員を選任が審議され、左下一覧の役員が選任されたことを受け、紀田宮司から役員各位に委嘱状の手交が行われ、会則に基づき会長に就任されました吉水謙二氏(前若宮八幡社総代長)が

議長に就任の上、『奉斎会設立の経緯』、『事業計画』、『会計現況』、『予算案』が審議され、すべての議案は出席者の承認を戴き、ここに令和六年度の活動が発足されました。年会費は、正会員が年額五千円、家族会員(正会員の同居する家族)が年額二千円です。(入会金徴収なし)

主な事業計画としては、  
①奉斎会大祭の斎行  
②奉斎会年度総会の開催  
③観月祭・大祓へのご案内  
④社報「金鷹山」の送付  
⑤誕生月に揮毫神札を送付  
⑥積立金の醸出(年度末)  
⑦公式HPに「奉斎会」追記  
⑧勉強会「常若講座」の実施  
「常若講座」とは……



紀田宮司から吉水会長へ委嘱状を手交

若宮八幡社奉斎会 役員名簿		
役職	氏名	摘要
会長	吉水謙二	前若宮八幡社総代長
副会長	矢野守光	若宮八幡社総代長
理事	安倍雄次	若宮八幡社開運祖霊講
理事	小田和人	西溝井区長(前北杵築地区区長会長)
顧問	八坂恭介	地域有識者
顧問	阿部順治	地域有識者
監事	本多泰久	若宮八幡社総代(会計)
監事	井上 剛	若宮八幡社総代(斗初穂)
事務局	紀田兼宣	若宮八幡社宮司

敬称略



石清水八幡宮

【常若・とこわか】とは……?  
常若とは、神道の基本理念で、例えば伊勢神宮の式年遷宮が二十年に一度、執り行われることで常に御神威が瑞々しくあることを表す言葉です。皆様のご入会を、心よりお待ちしております。

# 若宮八幡社奉斎会主催 『常若講座』を始めます

一般の方も自由にご参加戴けます

来る十月十四日(月・スポーツの日)の午後、若宮八幡社奉斎会主催『常若講座・とこわかこうぎ』を開催しますので、ご来場をお待ち申し上げます。この講座は、『若宮八幡社奉斎会』の事業計画の一つとして行いますが、奉斎会会員のみならず、一般の方の聴講も可能です。第1回を十月に開催し、以降年に4回(三ヶ月に一回)執り行います。

記

- 若宮八幡社奉斎会主催第1回『常若講座』
- 日時 令和六年十月十四日(月・スポーツの日) 午後 きつき生涯学習館を予定
- 参加費 百円(会場使用料・資料代)学生は無料
- 講座名 『若宮八幡社のご祭神と 夏越大祓の輪由来(備後國風土記)』
- 講師 若宮八幡社宮司 紀田兼宣先生
- 申込み 若宮八幡社奉斎会(事務局 紀田宮司まで)



夏越大祓 大茅の輪



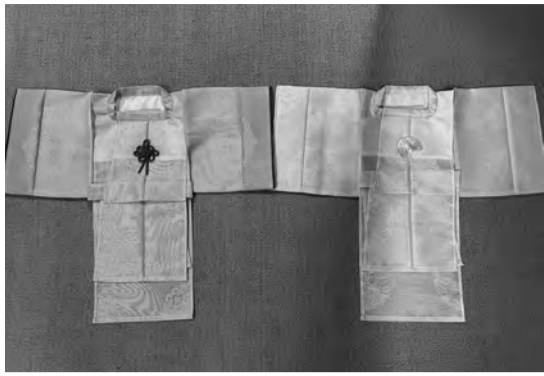
観月祭の予告 十月十七日(木)の夕刻に雅楽を演奏します

若宮八幡社奉斎会が主催する「観月祭」(雅楽の演奏会)を斎行致します。

大分県神社庁の雅楽講師である紀田宮司と共に、現在八名の方々が、主に管絃の中で、鳳笙(ほうしよう)・箏(ひちりき)と共に、三管の一つとされる龍笛(りゅうてき)の研鑽を図るべく、月に2回(隔週の土曜日)二所懸命に努力をされております。

若宮八幡社奉斎会の主催ですが、どなたでも鑑賞になれますので、皆様のご来駕をお待ちしております。

【観月祭】  
●日時 十月十七日(木)  
午後五時 若宮八幡社



初誕祭の衣装

一歳の誕生日を目途に、「初誕祭」のご祈願をお勧め致します。  
一升餅の準備等がありま

初誕祭・七五三詣のお勧め お子様への健やかな成長を祈念します

●当社で用意するお着物  
児童用の狩衣(朱色か緑色を選んでください)と烏帽子をかぶってご祈願致します。

【初誕祭の申込み】  
①祈願料 一万円也  
(餅代・貸衣装代込み)  
※一升餅は、祈願後にお持



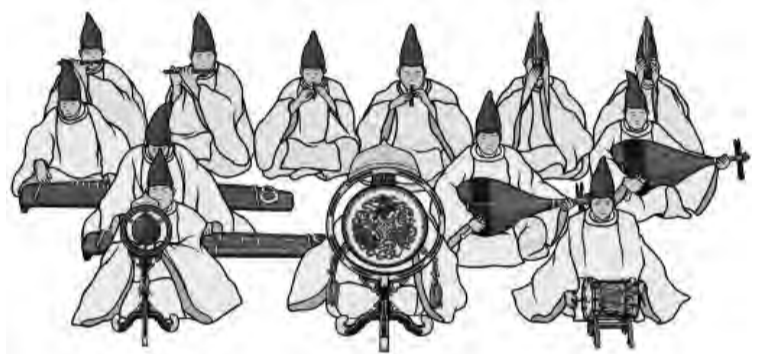
初誕祭のイメージ

ち帰り戴きます  
②申込みは、一歳の誕生日を目途に、必ず事前に予約をお願い致します。  
(餅の準備のため)  
▼赤ちゃんの「初宮詣」や、子供の健やかな成長を祈願する「七五三詣」も承ります。



昨秋の観月祭

【奉納演目】  
①志越調 胡飲酒  
序及び当曲  
②神楽 「浦安の舞」  
※巫女舞はありません  
③太食調 長慶子



雅楽(管絃)のイメージ

第六十三回神宮式年遷宮特集記事

「連の神事には『杵築祭(こつきさい)』というお祭りもあります

「式年遷宮」とは、二十年に一度、宮処(御敷地)を改め、古式のままに御社殿や調度品をはじめ一切を一新して皇祖天照大御神のお遷りを仰ぐ伊勢神宮(以下、神宮)最大の重儀であります。

「式年」という漢字の意味は、定められた年…とのことです。この場合、二十年に一度、大御神がお遷りされることとがクローズアップされますが、「遷御」に至るまでには、数々の神事が斎行されます。式年遷宮は、去る四月八日に天皇陛下の御聴許を拝されて、正式なる「第六十三回神宮式年遷宮」の諸準備が取り進められることと決せられました。

以降につきましては、各界の有識者による「神宮式年遷宮準備委員会」が組織され、本格的なご準備に着手されることとなります。

令和十五年秋の「遷御」を目指して、令和七年から、御造営御用材を伐採する「御杣山・みそまやま」の山口(山の入り口)に坐す神様をお祭りする『山口祭・やまぐちさい』で諸祭儀が開始され、更には新宮の御床下に奉建する「心御柱・しんのみはしら」の御料木を伐採するにつき、御木の本木(このもと)に坐す神様をお祭りする『木本祭・このもとさい』と続き、三十に及ぶ神事が行われることとなります。

その一連の神事の中で、『杵築祭(こつきさい)』という神事をご紹介します。

杵築という漢字があるので、何だか身近に感じてしまいましたが、『杵築祭』とは、令和十五年秋の『遷御・せんぎよ』の前に行われる神事で、神殿竣工(工事が終わること)に際し、御敷地である大宮地を撞き固める祭儀です。

祭儀に先立ち、五丈殿という場所での饗膳の儀を行い、神殿の周りを巡り御柱の根本を古歌を唱えながら白杖で撞き固めます。

第六十三回式年遷宮は、令和十五年の秋なので、まだ九年後のことと思われませんが、前回の第六十二回式年遷宮は、平成二十五年に行われており、二十年間の真ん中である十年後に、次の遷宮の諸準備が行われることは、それだけ諸祭儀が多くあることの証左でもあり、この度もその諸準備に併せて『神宮式年遷宮奉賛事業』が全国展開される予定ですので、皆様方もその主旨をご賢察になり、式年遷宮に対するご理解とご協力をお願い申し上げます。



杵築祭(内宮) 写真提供:神宮司庁



# 新嘗祭(勤労感謝の日)に 神様に秋の稔りを奉獻しませんか?

秋の稔り大きことを神様に感謝申し上げる新嘗祭が、来る十一月二十三日(土・勤労感謝の日)に斎行されます。この新嘗祭に併せて、氏子崇敬者各位からの「秋の稔り」のご奉獻を承ります。写真は、「懸税・かけちから」と呼ばれる、神様に捧げる稲穂で、この懸税が現在の「税金」の語源となっています。写真のような稲穂「懸税」をはじめとして、「お米」・「野

菜」・「果物」など若宮八幡社の神様にお供えになりませんか?



懸税



懸税

## 来年の祈年祭(四月六日)に向けて

### 『御田植祭復興委員会』を発足

去る四月六日(土)に、新嘗祭で秋の稔り多きことを神様にお願する祈年祭(祈年祭・きねんさい(春季大祭))が斎行されました。

本来ならば、当日の午後大分県無形民俗文化財である「御田植祭」が奉納される予定でしたが、諸般の事情により止むを得ず中止となりました。

理由としては、感染症のこのほかに、地元保存会の方々の負担増などがあげられます。

杵築市の人口減少問題は、当地に限ったことではなく、地方での共通する課題なので、関係者一同は御田植祭の行く末を案じる日々でありました。

このため、この度「御田植

お祭りに奉仕する方を  
広く募集します

祭復興委員会」という組織を編成し、御田植保存会、若宮八幡社総代会は勿論のこと、北杵築小学校・杵築小学校、また北杵築地区・杵築地区の有志の方々にご協力を戴き、去る八月二十五日(日)には、来年の御田植祭の復興を目指して第2回目の打合せを行いました。

併せて御田植祭を奉仕する人員も募集しております。

#### ●早乙女の募集

小学校6年生までの女子

#### ●大人奉仕者の募集

牛馬他の奉仕をする大人

いずれも、年明けから練習会を数回に亘り行いますので、練習会に参加できる方を募集します。

#### 【照会先】

若宮八幡社 紀田宮司まで



奉仕する早乙女たち



## 宮司出向の報告

各地で雅楽の演奏会また講習会の受講に出向しました

今年の上半期における紀田宮司出向奉仕・受講の記録により、当社の観月祭にも活かす所存であります。

- ・五月 十一日(土) 於 福岡県二日市 正行寺 筑紫楽所 舞楽奏奉仕
- ・五月 二十一日(火) 於 福岡市博多区鎮座 住吉神社 第8回九州雅楽講習会 受講
- ・五月 二十三日(木) 於 福岡市鎮座 住吉神社能楽殿 第1回九州神職雅楽会演奏会 奏楽
- ・六月 一日(土) 於 平和市民公園能楽堂 蓬菜雅楽会設立三十五年記念演奏会 奏楽
- ・六月 十四日(金) 於 玖珠郡 嵐山瀧神社 第三十四回玖珠郡豊穰祈願祭 及び平成大嘗祭風俗舞 奏楽
- ・七月 十七日(水) 於 福岡県 太宰府天満宮 十九日(金) 於 福岡県 太宰府天満宮 福岡県神社庁雅楽部会夏期雅楽講習会 受講
- ・八月 十九日(月) 於 福岡県 太宰府天満宮 福岡県神社庁雅楽部会浦安の舞講習会 受講

#### 編集後記 紀田宮司のひとこと

▼「どうして翌朝にはお腹がすくの、毎晩ご飯を食べるのか?」「どうして髪の毛は伸びて定期的には散髪に行かない?」「何ゆえに人は苦しい困難に立ち向かい、一所懸命に働くのか?」という質問を受けることがよくあります。▼その時には、『常若』と『わか』という言葉を使つて氏子の方には説明するようにしております。▼一日の結びとして晩御飯を感謝して戴き、『よし!明日も頑張ろう』と思ひ、床屋で頭を綺麗にしたら気持ちも清々しくなるし、仕事などでの困難を克服したときに、またこれからの邁進していこうと考えるのが人間の素直な気持ちだと思ひます。▼これが人間の体の機能として、お腹が永遠にすかない・髪の毛が全然伸びない・単調な毎日を送る...という無機質なものと違った何とメリハリのないロボットのような毎日になると思ひます。▼その話をした後で、伊勢神宮(正式には神宮)の最重儀である「式年遷宮」の説明を行います。▼どうして二十一年に一度、神宮の御社殿をはじめ調度品に至るまで新造する必要があるのか?▼我々神職は昔から「言挙げせず」という理念のもと、その言葉を曲解し殊更に余計なことは言わずに、氏子崇敬者に説明をしないで今日に至つたのではと感じております。▼前記した『常若』...これは、神宮式年遷



平成大嘗祭主基地方風俗舞



蓬菜雅楽会設立35年記念演奏会 写真提供:蓬菜雅楽会

宮が二十一年に一度、御社殿や調度品を一新して、常に神様のご神徳が瑞々しくあられる...との意味です。▼更には式年遷宮で古材となつた旧御社殿の御用材は、廃棄されることなくそれぞれ、由緒ある神社に下賜され、そのご神徳は永遠に続くことを鑑みるに、いま流行りのSDGsが言われるはるか以前からエコに取り組んでこられた先人の知恵に感服するばかりであります。▼本号では、式年遷宮について記載したと同時に、当社も若宮八幡社奉斎会主催の『常若講座』を開催し、神宮をはじめ、神社・神道の『?』を共に勉強してまいりますので、皆様のご参加をお待ち申し上げております。

宮司 紀田兼宣 謹記